

Vol. 93

Vol.93 (2022年 冬号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence / PM 事例・知識 ... 3

Stakeholders / 法人スポンサー紹介 23

Activities / 支部活動 26

PM Calendar / PM カレンダー 28

Fact Database / データベース 29

Editor's Note / 編集後記 33

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

◆CAPM®試験合格体験記	3
千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 4年 廣瀬 理桜	
◆PMI Japan Festa 2022 開催結果報告	5
PMI Japan Festa 2022 統括PM セミナープログラム 鴨下 恵一	
◆委員会・部会活動内容紹介	15
1. リスク・マネジメント研究会	
リスク・マネジメント研究会 代表 井寺 寿利	
2. 組織拡大委員会	
組織拡大委員会 委員長 藤井 新吾	
3. PMコミュニティ活性化委員会	
PMコミュニティ活性化委員会 代表 杉原 秀保	

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

・株式会社 JQ	23
----------------	----

Activities / 支部活動

◆「ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ2022」開催結果報告	26
PMI日本支部 関西ランチ PM実践研究会 上辻 裕己	

PM Calendar / PMカレンダー

- ・PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース

Editor's Note / 編集後記

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。

「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

CAPM®試験合格体験記

千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 4年 廣瀬 理桜

今回は千葉工業大学におけるCAPM®試験対策を紹介させていただきます。



■CAPM®受験のきっかけ

CAPM®の受験を決めたのは大学3年生になってすぐでした。

デザインとは美しい形、華やかな見た目を作る事と思われがちですが、それはデザインの一部分にしかすぎません。私にとってデザインとは社会の中にある課題を発見し、課題解決を形にすることです。また、デザイナーは、誰かと一緒にチームでデザインをすることが多いと考えています。

大学の授業でデザインを学ぶ時は、課題に対して学生同士でディスカッションする機会がありつつも、最終的に1人での制作がほとんどでした。そのため、チームで働けるデザイナーになるためには授業以外でもたくさんの経験をする必要があると考えました。

それからは、学生のうちにたくさんの経験をしようと自ら手を挙げ積極的にプロジェクトに参加してきました。プロジェクトの中にはメンバーと意見が合わず解決策もないままギスギスする事や、工数の管理や把握がうまくできず納期直前にバタバタとしてしまうこともあり、他者とデザインをすることの難しさを感じました。それでも、プロジェクトを通した制作は1人でデザインを完成させる何倍も達成感があり、1人では得ることができなかった経験をすることができました。

そんな中、大学2年生後期の授業でプロジェクトマネジメントについて学びました。この授業を通して、色々なことに挑戦することはできても、イマイチやり方がわからず上手に立ち回ることができない自分にはチームで動くことに対する考え方、マネジメント力が足りていないのだと気がつきました。

大学3年生の夏にはCAPM®試験対策講座(図1)が開講されることを知り、迷わず申し込みしました。

勉強の仕方としては、講義に加え学んだことをその日のうちにオンラインホワイトボードのmiroに各プロセスのイン

図1 CAPM®試験対策講座の様子



プットとアウトプット、各プロセスの関係性をまとめ、試験当日まで復習しました(図2)。miroは複数人で編集することができます。そのため、一緒に講座に参加した友人とmiro上で一緒にまとめながら情報共有をし、合格まで互いに励まし合いながら一緒に勉強を進めました。

■CAPM®合格後の大学生活

大学3年生の夏にCAPM®試験を合格した後は、学内でのプロジェクトや就活でのグループワークなど様々な場面でCAPM®で学んだ知識を発揮しました。WBSを用いたプロジェクトの計画や、遅延した時のスケジュール調整などプロジェクトの進め方を学んだことで、以前よりもチーム間での情報の共有やトラブルが起きた際の議論がスムーズに進むようになりました(図3)。結果的に、成果としてクオリティの高いものが作れるようになりました。

特に就活では私にとって大きな強みになりました。面接では頻繁にCAPM®が話題に上がり、デザインを勉強しながらプロジェクトマネジメントの勉強をした理由を話しました。それは私のデザイナーとして大切にしている部分に言及する話題であったため、他のデザイナー志望の学生とは違った特徴をアピールできていたと思います。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■CAPM®試験合格体験記

図2 実際にまとめていたmiro



図3 プロジェクトミーティングの様子



■デザイナー×PMとしての今後

デザイナーは課題解決策を形にする中で考えや思考も言語化する必要があります。そのため、デザイナーが抽象的な物事を言語化することを得意とし、それを他者に伝えることができる人が多いと感じています。そういう人はきっと、たくさんの人を巻き込んでモノやコトを作ることができるしプロジェクトをリードできる人です。

私も、将来デザイナーとしてプロジェクトの中心に立ち、ユーザーの目線になりながらもプロジェクトメンバーの目線にもなり、メンバーの力が最大になるような形でクリエイティブができるデザイナー兼PMを目指します。

「PMI Japan Festa 2022」開催結果報告

PMI Japan Festa 2022 統括PM セミナープログラム 鴨下 恵一



PMI日本支部 セミナープログラム主催

PMI JAPAN FESTA 2022
Another Step with Adaptive Management in the VUCA Era
プロジェクトマネジメントの新たなステージへ

リアルタイム配信 11月12・13日
オンデマンド配信 11月末まで

10PDU、ITC実践力ポイント10時間分

日 程：2022年11月12日(土)～11月30日(水)

テ マ：プロジェクトマネジメントの新たなステージへ

～Another Step with Adaptive Management in the VUCA Era～

講演形態：リモート配信

- リアルタイム配信：11月12日(土)、13日(日)各日5セッション 計10セッション
- オンデマンド配信：11月12日(土)～30日(水)

講師一覧

日付	No.	講師	所属	講演テーマ
11月12日	1	安田 クリスチーナ 様	Microsoft Corporation アイデンティティ規格アーキテクト	国際標準化の最前線より ～分散型アイデンティティ編～
	2	中竹 竜二 様	(株)チームボックス 代表取締役社長	なぜ心理的安全性で「ぬるい組織」ではなく 「挑戦する組織」が生まれるのか
	3	式町 久美子 様	(一社)日本プロポーザルマネジメント協会 代表理事	最強の提案チームの作り方
	4	津田 雄一 様	JAXA宇宙科学研究所 教授	はやぶさ2の軌跡： 大規模科学技術のマネジメントとその成果
	5	三木 恵 様	ファイザー R&D合同会社 プロジェクトマネジメントグループ2 部長	新型コロナウイルス感染症経口治療薬/パキロビッド® パックの 研究開発プロジェクト
11月13日	6	櫻本 真理 様	(株)コーチェット 代表取締役社長	成功するプロジェクトにおける チームビルディングとコミュニケーション
	7	渋谷 雅人 様	全国こども食堂支援センター むすびえ 理事	ひとりの明日を変える「こども食堂」
	8	堀内 勉 様	多摩大学社会的投資研究所 教授・副所長	君たちはどう生きるか？ ～ビジネスリーダーに求められる教養と読書の意味～
	9	園田 愛 様	(株)インテグリティヘルスケア 代表取締役社長	デジタルを活用した新たな治療体験、医療モデルの創造
	10	遠藤 傑 様	NTTコンピュータ & データサイエンス研究所 Ph.D. Researcher	量子コンピューター研究の最前線と プロジェクトマネジメント

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2022」開催結果報告

■はじめに

2022年11月12、13日にPMI Japan Festa 2022が開催され、11月30日まで各講演のオンデマンド配信を行いました。

今年のテーマは、「プロジェクトマネジメントの新たなステージへ Another Step with Adaptative Management in the BUCA Era」としました。次々と発生する新型コロナウイルスの変異株、ロシアによるウクライナ侵攻、元総理大臣狙撃事件等、考えもしなかったようなことが次々と起こる世の中です。

プロジェクト遂行の世界でも、発生する予期せぬ事態に遅滞なく対処するため、私たちプロジェクト・マネジャーは、どのように備えればいいのでしょうか。今回は不確実性が高まるBUCAという時代に適応してゆくために求められるマネジメントとは何かを求め、10人の講師の方にご講演いただき、期間中430人を超える方々に参加登録いただきました。

■10講演の概要

新型コロナウイルス発生以降、感染拡大への対応についてご紹介いただく機会がありませんでしたが、今回は医療業界からお二人のご登壇を得ました。正に新型コロナウイルスに対する治療薬開発についてお話しいただいた三木様。グローバルと国内の連携により、2年間という医薬品開発としては異例の速さで製造販売承認を取得したお話は、臨場感溢れるものでした。

もうお一人、園田様にお話しいただいた「医療のデジタル化」は今後の医療にとって重要な分野です。臨床研究にも有用ですが、医療を患者中心のものとし、私たちの日常生活を支えるものとする 것을目指して取り組んでいってほしいです。

このお二人に加えて、今回は研究開発という最も不確実性の高い領域からのお話を津田様、遠藤様からもご講演いただきました。

津田様には、人類が未経験であるにも関わらず、ミスが許されない宇宙開発プロジェクトの運営をご紹介いただきました。打ち上げて以降は追加変更が許されない中、如何に準備し、準備したものを応用して課題解決するか、それを可能とする人的マネジメントが重要とのことでした。

遠藤様には最先端の量子コンピューターについて分かり易く解説いただきながら、研究開発プロジェクト、論文作成に共通のマネジメントをまとめていただきました。

皆さんのお話から、不確実性が高い状況だからこそ、目標をしっかりと設定して、それをメンバーで共有し、状況変化に対応しながら目標に向かうことが重要であることがわかりました。

また、皆さんそれぞれがグローバルなプロジェクトで活躍されていますが、安田様にはグローバル社会で必要となる標準化について、各社がしのぎを削る現状と各社間で合意点を見出すマネジメントをご紹介いただきました。また、もう一つ、私たち日本人が知らない知識体系として、プロポーザルマネジメントを式町様よりご紹介いただきました。日本の生産性を向上させる可能性があるものであり、日本での普及に尽力されています。活動の場が世界に広がっている現在、私たちも積極的に取り入れていく必要性を感じました。

一方、渋谷様には、草の根的な、こども食堂の活動についてお話しいただきました。営利か非営利か、また大きさの大小、グローバルか地域かに関わらず、プロジェクトマネジメントとしては同じであることがよくわかりました。

プロジェクトの成功に重要なことは、コミュニケーションをよくして相手を理解し、自分とメンバー、そしてプロジェクトの成功を信じて協力し、やりきることだと改めて感じました。

そして堀内様には、リーダーがやりきる支えとして「自分にとって本当とは何か」を認識することの重要性、認識するための教養、読書についてご講演いただきました。

さらに、成果を発揮する組織づくりについて、中竹様には心理的安全性、櫻本様にはコーチングという観点でお話しいただきました。心理的安全性が高いチームとは、目標達成のために厳しいことも言え、頑張れる組織です。そうした環境づくりには、リーダーのセルフマネジメントも重要です。

以下、10人の方々の講演について、ホームページに掲載した概要を元にご紹介します。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2022」開催結果報告

■No.1

国際標準化の最前線より

～分散型アイデンティティ編～

□ 講師：安田クリスティーナ 様 /Microsoft Corporation アイデンティティ規格アーキテクト

□ 講演：2022年11月12日(土) 12:10～13:10

【講師プロフィール】

米マイクロソフト社で、アイデンティティ規格アーキテクトとして、分散型ID関連の技術規格の国際標準化に取り組む。パラレルキャリアとして、NGO「IBO Zambia」を創設し、途上国における身分証明インフラを整備するデジタル・アイデンティティ事業に取り組む。パリ政治学院主席卒業。



国際標準化実績 [W3C] Verifiable Credentials Working Group - Chair

[IETF] RFC9278 - Author

[IETF] SD-JWT (Selective Disclosure for JWTs) OAuth WG draft - Author

[ISO] SC17 WG4 and WG10 (電子運転免許証) - Contributor

[OpenID Foundation] OpenID for Verifiable Presentations - Editor

[OpenID Foundation] Self-Issued OpenID Provider v2 - Editor

[OpenID Foundation] OpenID for Verifiable Credential Issuance - Editor

[DIF] JWT VC Presentation Interoperability Profile - Editor

□ 受賞歴

2019年Forbes Japan 30Under30

2020年JCI JAPAN TOYP 文部科学大臣奨励賞

2021年MIT Technology Review Japan Innovators Under 35

滋慶学園グループ TECH.C. 教育顧問

内閣官房 Trusted Web 協議会 委員

【講演概要】

自分の身元を証明する手段がないが故に、金融や医療、通信など、生活に最低限必要な分野においてサービスを受けることができない、難民のような方々に機会への平等なアクセスを提供するための手段として分散型アイデンティティに出会ったのが2016年。

NGOでの活動として行った、バングラデシュでの実証実験を通して、技術やエコシステムの未熟さを実感したのが2019年。

業界の発展に向けて、法学部出身の自分が貢献できる場所として行きついたのは、「ビジネスにおける法律」ともいえる国際標準化でした。実際に広く使われる国際規格を作り上げるには、技術的知識や対人関係構築力、問題解決能力など多岐にわたるスキルが必要です。

マイクロソフト社内では、プロダクトマネージャー・エンジニア・カスタマーサポートなど複数のチームの間に立ち、社外では、グーグルやアップルなどのビッグテック企業・スタートアップ・政府機関など多種多様な分野の組織の代表とやり取りをする毎日。そんな国際標準化の世界をチラ見せます。

■No.2

なぜ心理的安全性で「ぬるい組織」ではなく「挑戦する組織」が生まれるのか

□ 講師：中竹 竜二 様 / 株式会社チームボックス 代表取締役社長

□ 講演：2022年11月12日(土) 13:25～14:25

【講師プロフィール】

1973年福岡県生まれ。早稲田大学卒業、レスター大学大学院修了。

三菱総合研究所勤務後、2006年に早稲田大学ラグビー蹴球部監督に就任し、自律支援型の指導法で大学選手権二連覇



Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2022」開催結果報告

を果たす。

2010年、日本ラグビーフットボール協会において初めてとなる「コーチのコーチ」、指導者を指導する立場であるコーチングディレクターに就任。2012年より3期にわたりU20日本代表ヘッドコーチも兼務。2019～21年は理事を務めた。

2014年には、企業のリーダー育成トレーニングを行う株式会社チームボックスを設立。

2018年、コーチの学びの場を創出し促進するための団体、一般社団法人スポーツコーチングJapanを設立、代表理事を務める。

ほかに、日本車いすラグビー連盟 副理事長 など。

著書に『ウィニングカルチャー 勝ちぐせのある人と組織のつくり方』（ダイヤモンド社）、『自分を育てる方法』（ディスカヴァー21）など多数。

【講演概要】

近年、成果を出して成長し続ける組織に不可欠な要素として注目を集める「心理的安全性」。なぜ心理的安全性が高いと挑戦する組織が生まれるのでしょうか。

それはリーダーをはじめとするメンバー誰もが安心して自分らしくいられるから。

そこに、VUCAと言われる困難な時代においても、挑戦する組織文化を育んでいくヒントがあります。

まずは「心理的安全性」という言葉の意味を正しく理解し、挑戦する風土を醸成していくためにリーダーがどう振る舞っていくべきか、実例を交えて解説します。

あなたが目指す理想の組織の実現に向けて一緒に学んでいきましょう。

■No.3

最強の提案チームの作り方

□講師：式町 久美子 様 / (一社) 日本プロポーザルマネジメント協会 代表理事

□講演：2022年11月12日(土) 14:40～15:40

【講師プロフィール】

日本ヒューレット・パッカードにて法人営業の提案支援

チームを立ち上げ提案活動の生産性向上に従事。

提案活動全般をマネジメントし組織提案力を高める「プロポーザルマネジメント」を体系化する国際的組織 APMP (Association of Proposal Management Professionals) が認定する最上位資格を日本人で初めて取得。

日本での普及を目的とした一般社団法人日本プロポーザルマネジメント協会を設立。組織提案力強化を通じ、人や組織の発展を目指した活動に取り組んでいる。



□学歴

グロービス経営大学院 経営学修士 修了

□資格

CPP APMP (Certified Proposal Professional, APMP Member) 等

□著書

ITエンジニアの必須スキル 顧客に響くシステム提案メソッド (日経BP社)

受注を勝ち取るための外資系「提案」の技術 (ダイヤモンド社)

【講演概要】

顧客のその先の期待に応える提案で受注を勝ち取る、最強の提案チーム作りのためのマネジメント手法が存在します。それがプロポーザルマネジメントです。提案期間に特化したプロジェクトマネジメントとも言えるプロポーザルマネジメントには、世界のベストプラクティスに基づく Body of Knowledge が編纂されています。

プロポーザルマネジメントを実施する組織と、そうでない組織との間では、生み出す付加価値に大きな差があります。しっかり実践すれば、自社にも顧客にも価値をもたらす提案が実現しやすくなります。また、双方にとって生産性が高い働き方に変えることができます。

提案活動に労力を注いでも受注につながらない、結果としての外れとなる提案からニーズに刺さる提案に変えたいがやり方がわからないとお悩みの方に、「提案」改革で組織を強くする Body of Knowledge のエッセンスをご紹介します。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2022」開催結果報告

■No.4

はやぶさ2の軌跡： 大規模科学技術のマネジメント とその成果

□ 講師：津田 雄一 様 / JAXA宇宙科学研究所教授・はやぶさ2 プロジェクトマネジャー

□ 講演：2022年11月12日(土) 15:55～16:55

【講師プロフィール】

2003年東京大学大学院修了。博士（工学）。2003年JAXA宇宙科学研究所助教。2008-2009年 ミシガン大学およびコロラド大学ボルダー校客員研究員。2015年JAXA宇宙科学研究所准教授。2020年同教授

専門は、太陽系探査、宇宙工学、宇宙航行力学



いまや世界中で作られている「キューブサット」と呼ばれる10cmサイズの超小型衛星を世界で初めて開発、はやぶさなどを打ち上げた「M-Vロケット」の開発、小惑星探査機「はやぶさ」の運用などに従事。またソーラーセイル宇宙船「イカロス」のサブチームリーダーとして、世界初のソーラーセイル技術の実現へと導いた。小惑星探査機「はやぶさ2」の開発にあたってはプロジェクトエンジニアとして技術開発を指揮。

2015年より、はやぶさ2のプロジェクトマネジャーとして小惑星のサンプル採取と地球帰還を成功させた。

近著に「はやぶさ2 最強ミッションの真実」（NHK出版）、「はやぶさ2の宇宙大航海記」（宝島社）、「はやぶさ2のプロジェクトマネジャーはなぜ『無駄』を大切にされたのか？」（朝日新聞出版）

【講演概要】

小惑星探査機はやぶさ2は、人類未踏の小惑星リュウグウに到着し、4基の探査ロボットによる地表探査、2回の高精度着陸、世界初の人工クレーター作成および観測などを成し遂げました。そして2020年12月6日に無事地球に帰還しました。

帰還したカプセルの中からは、5.4グラムという多量のリュウグウのサンプルが確認され、今後の科学成果が期待されています。宇宙探査プロジェクトの特徴は、挑戦的な活動と大きな成果が期待される一方、マネジメント上は高い確実性が求められます。

本講演では、文字通り人類未踏ゆえに不確定性の高いプロジェクトを成功に導くことができた実例として、はやぶさ2プロジェクトの顛末と、マネジメント上の奮闘を紹介します。

■No.5

新型コロナウイルス経口治療薬 パキロビッド® パックの研究開発プロジェクト

— プロジェクトの成功をチームの誰よりも信じたPMのお話 —

〔PM Award 2022 最優秀プロジェクト賞〕

□ 講師：三木 恵 様 / ファイザーR&D合同会社 医療開発部門 プロジェクトマネジメントグループ2 部長

□ 講演：2022年11月12日(土) 17:10～18:10

【講師プロフィール】

国立大学医学部附属病院薬剤部にて薬剤師として病棟業務、服薬指導などの臨床薬剤師としての経験および研究活動を行う。

その後、内資系・外資系の製薬企業において医薬品の臨床開発に従事し、抗がん剤、血液疾患、感染症領域など数多くの医薬品の承認取得に貢献。現在、ファイザーにおいてパキロビッド® パックのプロジェクト・マネジャーを務めるとともに抗がん剤領域、病院部門（主に感染症領域）の疾患領域リードとして50以上のグローバル臨床開発プロジェクトのポートフォリオマネジメントを行う。

早期開発候補品の導入選定、開発ストラテジーの検討・実行、ライセンスイン・アウト、共同開発などのビジネスアライアンスチームにも参画し、担当疾患領域におけるパイプラインの拡充にも従事。また、プロジェクト・マネジャーのグループ長として次世代PMの人材育成にも取り組む。



Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2022」開催結果報告

【講演概要】

ワクチンによる感染予防と同時に治療薬の開発が急がれる中、ファイザーは新型コロナ感染症治療を目的に創製した経口薬パキロビッド®パック（ニルマトレルビル錠/リトナビル錠の共包装品）の研究開発プロジェクトチームを立ち上げました。

医療関係者の協力、規制当局との連携、多くのステークホルダーのご尽力により、2021年12月22日の米国における緊急使用許可に基づき、2022年2月10日に日本の特例承認を取得しました。

グローバル開発の途中で多くの仕様の変更が想定され、不確定要素が多いなかでも大幅な期間短縮を達成するため、従来のウォーターフォール型にアジャイル型を柔軟に取り入れたハイブリッド型プロジェクトマネジメント手法を活用しました。

世界的な大規模プロジェクトの中で日本チームがグローバルチームとどのように協働したのか、その時プロジェクト・マネジャーは何を考え行動していたかをお話したいと思います。

■ No.6

成功するプロジェクトにおけるチームビルディングとコミュニケーション

□ 講師：櫻本 真理 様 / 株式会社コーチェット 代表取締役社長

□ 講演：2022年11月13日(日) 9:30～10:30

【講師プロフィール】

1982年広島県生まれ。京都大学卒業後、モルガン・スタンレー証券、ゴールドマン・サックス証券に勤務。2010年日経アナリストランキング10位（その他素材部門）にランクインするなど、株式アナリストとして活動。

当時、メンタルヘルスの課題を抱えたときに医療以外の場で気軽に向き合うことができる場が必要と感じた体験から、



2014年にオンラインカウンセリングを提供する株式会社cotreeを設立。また、メンタルヘルスを扱う中で、上司との関わりで体調を崩す方が多いことに課題意識を持ち、2020年に人を生かし育てるリーダー育成・組織づくりを支援する株式会社コーチェットを設立。2022年日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー受賞。株式会社CAMPFIRE 社外取締役。

【講演概要】

近年、価値観の多様化と課題の複雑化・組織と人の選択的関係性の高まり・人的資本経営への要請などを受けて、組織におけるマネジャーの役割は「管理・指導」から「育成・エンゲージメント向上」に変化しつつあります。リモートワークの促進はそれに追い討ちをかけるように、マネジメントにおけるコミュニケーションの必要性を高め、マネジャーの心理的負荷や孤独感にもつながっています。

エンゲージメントが高く、メンバーが育つチームづくりのためには、チームビルディングについての基礎の理解・および心理的安全性や経験学習を促進するコーチング的な関わりが必須となります。また、マネジャー自身がレジリエンスを持ち、セルフマネジメントができていることも重要です。

本講演では、チームビルディングに役立つセルフマネジメントとコミュニケーションについて学び、受講者が現場での実践において具体的なイメージを持てるようになることを目指します。

■ No.7

ひとりの明日を変える「こども食堂」

□ 講師：渋谷 雅人 様 / 認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事

□ 講演：2022年11月13日(日) 10:45～11:45

【講師プロフィール】

山形県生まれ。1991年慶應大学（法学部）卒。同年、住友商事に入社。主に鉄鋼事業部門にてトレード、事業経営に従事。

2015年 住友商事東北株式会社 取締役。2017年、50歳で

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2022」開催結果報告

早期退職後、企業・NPOの経営戦略ダイアログパートナーとして活動。2020年10月から、全国こども食堂支援センター・むすびえに参画。志「助け合いに溢れ、出会うすべての人が自分に正直に生きる社会をともに生きること」。



得意分野は、コーチング、ファシリテーション、チームビルディング。共感力と俯瞰力を大切にしています。

好きな言葉は「When you want something, all the universe conspires in helping you to achieve it.」

【講演概要】

2012年に東京都大田区で生まれたこども食堂が2021年12月時点で6,000箇所に至るまで増加しています。5年前の18倍、このコロナ禍においても2年で約2,000個所のこども食堂が誕生しています。市民活動としては類稀な拡大を遂げているこの社会現象について、自身の体験とこども食堂のエピソードについて動画を交えながら解説します。また、コロナ禍で6回実施してきたこども食堂の実状&困り事アンケート結果から垣間見る直近の実状を披露します。

特に以下について追求する中で、これからのリーダーシップ、コミュニケーションに関する気づきを得ていただくヒントになれば幸いです。

- 草の根の市民活動が類稀に見る拡大をしているのはなぜか？
- 貧困対策のみならず、「誰でもどうぞ」と入場に制限を設けぬ多世代交流拠点として機能し多様な人々が参加者・運営者・支援者として関わるこども食堂の場の作り方からの学びは？
- コロナ禍という外部環境変化に対峙しながらも約90%のこども食堂が形を変えて活動を継続している実態から感じるものは？

■No.8

君たちはどう生きるか？

～ビジネスリーダーに求められる教養と読書の意味～

□講師：堀内 勉 様 / 多摩大学社会的投資研究所 教授・副所長、一般社団法人100年企業戦略研究所所長

□講演：2022年11月13日(日) 12:45～13:45

【講師プロフィール】

東京大学法学部卒業、ハーバード大学法律大学院修士課程修了。

1984年日本興業銀行（現みずほ銀行）入行。興銀証券（現みずほ証券）、ゴールドマンサックス証券、森ビル・インベストメントマネジメント代表取締役社長、森ビル取締役専務執行役員兼最高財務責任者（CFO）を経て、現在は、ボルテックス取締役会長、アジアソサエティ・ジャパンセンター理事・アート委員会共同委員長、川村文化芸術振興財団理事、ダイアログ・ジャパン・ソサエティ理事、社会変革推進財団評議員、READYFOR財団評議員、田村学園理事・評議員、麻布学園評議員、経済同友会幹事、書評サイトHONZレビュアーなどを務める傍ら、資本主義の研究をライフワークとして、多様な分野の学者やビジネスマンと「資本主義研究会」を主催している。



【講演概要】

現代は、「100年に一度の危機」が毎年起こるような激動の時代に突入しています。地球環境問題から国家間の紛争、社会のあり方や人々の働き方まで含めて、20世紀の価値観が大きく揺さぶられ、与えられた問題に対して予め用意された答えを探すという時代はとうに過ぎ去り、自らが自らの歩む道を決めなければならない、「自分はどう生きるのか？」がそれぞれに問われる時代になっています。

IT革命やグローバル化の進展で、情報自体はいつでもどこでもオープンなリソースとして入手できるようになったにも関わらず、我々の進む道はますます不透明で混沌としたものになっています。

今、ビジネスリーダーに求められるのは、そうした情報を活用して、自らが問いを設定し、自らの持てる能力を総動員し、自らがその回答を見出ししていく能力です。そうした混沌とした時代の中で、現代のビジネスリーダーに求められる教養とは何か？そのために読書が果たす役割とは？私は読書を自らの人生にどう役立ててきたのか？についてお話しします。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2022」開催結果報告

■No.9

デジタルを活用した新たな治療体験、医療モデルの創造

□講師：園田 愛 様 / 株式会社インテグリティ・ヘルスケア 代表取締役社長

□講演：2022年11月13日(日) 14:00～15:00

【講師プロフィール】

医療経営コンサルティングに従事後、株式会社リクルート事業開発室を経て、2009年株式会社インテグリティ・ヘルスケアを創業。同時に医療法人社団鉄祐会を共同創業。



2011年より東日本大震災後の大規模な医療復興事業を現地統括、並行してテクノロジーを活用した在宅医療支援システムおよび地域包括ケアシステムの構築に努める。

これらの実体験を経て、2016年よりヘルステック事業を開始、デジタルを活用した治療・疾患管理、臨床研究、臨床試験へと事業領域を展開、現在に至る。

東京医科歯科大学大学院修了。MBA。MMA。

【講演概要】

医療でのデジタル活用が進んでいます。COVID-19は極めて大きなインパクトであるものの一つの契機に過ぎず、医療へのデジタルの活用は大きな時代の流れの中で必然でした。

高齢社会化や疾患構造の変化により、日本の医療の主眼が「疾患の治療」のみならず「患者の生活の質の維持・向上」へシフトしました。これにより、医療の多くは患者の日常生活に深く関わっていくこととなりました。このような社会の変化に対応した医療の進化を支える一つの重要なツールが、デジタルです。

株式会社インテグリティ・ヘルスケアはこのような医療の進化を支える疾患管理システム『YaDoc（ヤードック）』を開発・提供しています。これにより、医療のパersonナライズ化を進め、治療アウトカム向上に寄与します。

今回はこのような事業に至るまでの創業者の原体験と、現

在に取り組む医療Dxについてお話しします。参加者の皆さんのキャリア展望の参考になりましたら幸いです。

■No.10

量子コンピューター研究の最前線とプロジェクトマネジメント

〔2022年 PMI Future 50 受賞〕

□講師：遠藤 傑 様 / NTTコンピュータ&データサイエンス研究所 Ph.D. Researcher

□講演：2022年11月13日(日) 15:15～16:15

【講師プロフィール】

NTTコンピュータ&データサイエンス研究所

革新的コンピューティングアーキテクチャ研究プロジェクト

コンピューティングデザイン研究グループ 所属



オックスフォード大学博士課程在学中から現在まで、中規模で計算エラーの大きいNoisy Intermediate-Scale Quantum (NISQ) コンピュータのアルゴリズムと、計算エラーを抑制する方法である量子エラー抑制法を研究し、執筆した論文の総引用数は3000件を超える。

現在は誤り耐性量子計算とNISQ 計算の狭間の領域にも興味があり、精力的に研究中。

2022年 PMI Future 50 受賞

2021年 Innovators Under 35 Japan受賞 (MITテクノロジーレビュー主催)

2020年 NTT入社

2019年 University of Oxford, department of materials 卒業

【講演概要】

皆さんは量子コンピューターについてどのようなイメージをお持ちでしょうか？

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2022」開催結果報告

物質を構成する原子や電子などの「量子」の持つ性質を利用して情報処理を行うコンピュータ、それが量子コンピュータです。次世代コンピュータの本命故に、多くのテクノロジー企業が開発にしのぎを削っています。

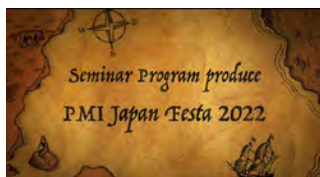
遠藤さまは量子コンピュータの計算エラーを抑える「量子エラー抑制法」の実用的な手法を世界で初めて提案されました。そして、機械学習や広範な量子系のシミュレーションを

実行できる汎用的なアルゴリズムも考案、量子コンピュータの実用性向上に大きく貢献されました。

今回の講演では、量子コンピュータの研究の最前線と、それに付随したマネジメントや研究現場での苦勞など、新たな世界を切り開く過程での逸話をお話いただきます。量子力学の世界で繰り広げられている圧倒的なスケールのプロジェクトを体感してください。

■運営面での趣向

企画・運営にあたるセミナープログラムの準備活動ぶりや、講師との事前リハーサルの様子などをコンパクトにまとめた動画や、グラフィックレコーディングは今年も好評いただきました。



開幕時の放映動画



閉幕時の放映動画



グラフィックレコーディングの例

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2022」開催結果報告

■日本支部内外の他のイベントとのコラボレーション

今年は、PM Award とのコラボレーションに取り組みました。昨年は、同時期に別々に行われていた二つのイベントですが、今回はPM Awardでの優秀プロジェクト投票と9月度月例セミナーとのコラボレーションに始まり、PM Award受賞者の三木様にPMI Japan Festaでご講演いただくことが叶いました。

さらにPMI本部が全世界の中から選んだ若き新進リーダーである「Future 50」のお一人、遠藤様も招請することができました。今まで以上に内容の濃い、充実したPMI Japan Festaになったのではないかと思います。

■総括

今回2日間の講演で共通していたことは、プロジェクトの目標をメンバー全員が理解し、達成に向けて協力しながら個々人が最大限努力できるチームを作ることが重要ということでした。そしてBUCAの時代であっても、組織づくりや人の育成は焦ってはいけない、十分時間をかける必要があるとおっしゃっていたのが印象的でした。

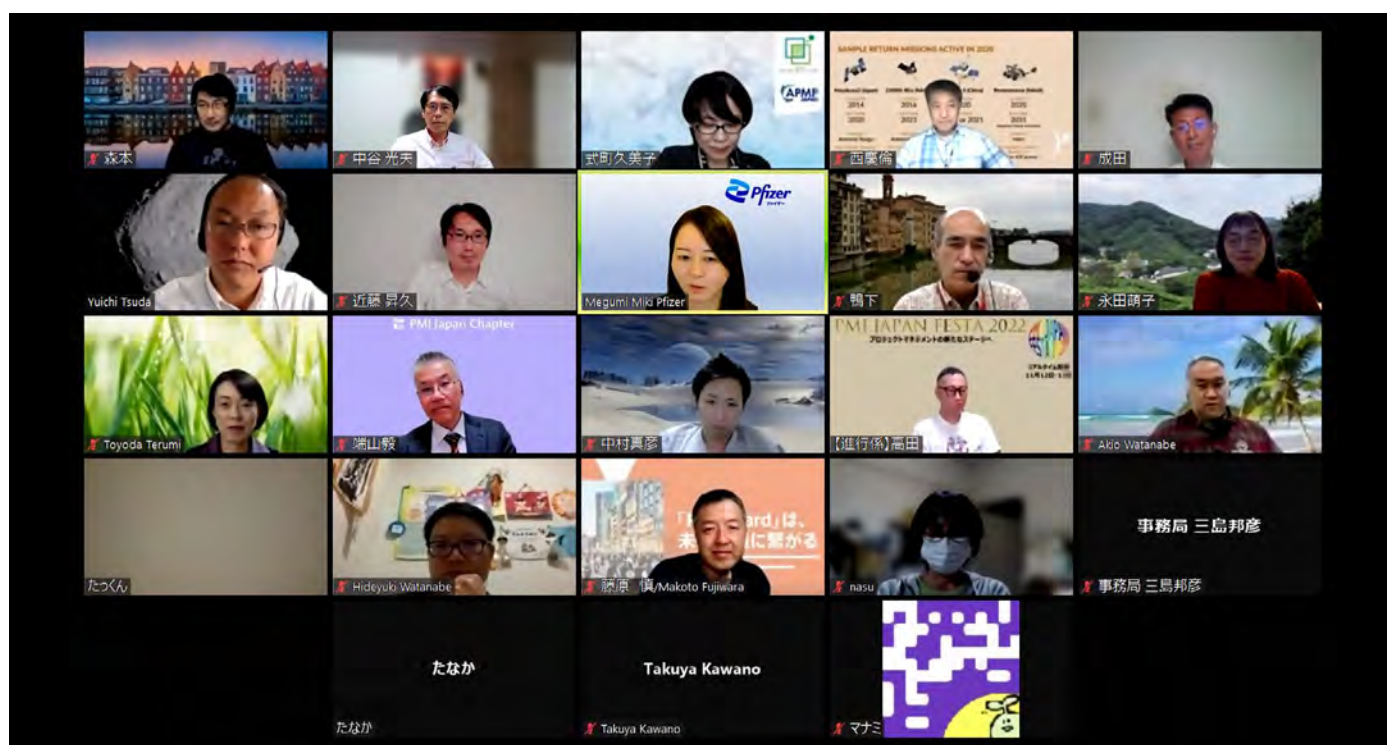
また、オンライン配信に切り替えたことで、PMI Japan

Festa自体も多様化してきました。聴講いただいた皆さんもさまざまな地域から参加いただけるようになりましたが、講師も国内外のご出張先から講演いただけるようになりました。安田様には、時差がある中、出張先のロンドンから（現地時間午前4時に）ご登壇いただきました。

さらに、観点は異なりますが、今回半数の講師が女性でした。この多様化の流れを積極的に取り入れるよう、セミナープログラム、PMI Japan Festaも変化に適合し、新たなチャレンジを行っています。

一つは、完全リモートになって以降、初めて交流会を開催しました。3名の講師の方にもご参加いただき、講演後の質疑だけでは聴けない、より深い情報交換ができました。一つの話題に対し、3名の講師のご意見を伺いつつ、参加者もかしこまらずに議論でき有意義な時間でした。

今回、私が統括PMとして至らない点も多く、開催直前まで未解決の課題もありましたが、メンバーの協力と、充実した講師陣により、無事終了することができました。今回の10講演が、聴講いただいた皆さんにとって、BUCAと言われる時代をリードしてゆくヒントになれば幸いです。そして、来年のJapan Festa 2023に期待いただきたいと思います。



3名の講師にも参加いただいた交流会

委員会・部会活動内容紹介

1. リスク・マネジメント研究会

リスク・マネジメント研究会 代表 井寺 寿利

1. はじめに

リスク・マネジメント研究会は2005年8月に発足し、18年目を迎えています。2022年度は2名の新規参画者を迎え、メンバー21名（1名は休会中）によりリスク・マネジメントに関するテーマを設定し研究活動を続けています。

2. ビジョン

研究活動をより活発にするために、研究会メンバーの研究参加動機を明確にした上で、2020年にビジョンの再設定を行いました。

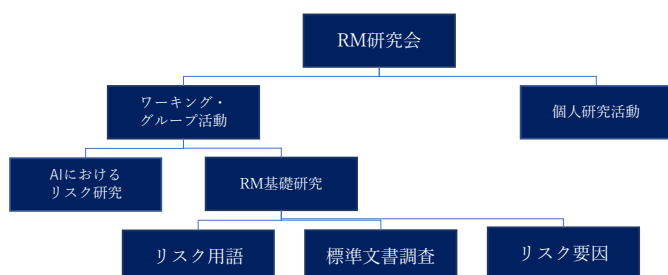
ビジョン：「どのような社会風習になろうとも、研究会の成熟度を向上させ、リスク・マネジメントに関わる議論の場と事例、情報の供給源となる。」

そのために、「メンバー同士切磋琢磨して自己向上の研究会」であり、「誇りを持てる研究活動」を行い、「PPP^(※1)におけるリスク・マネジメントの技術集団」になり、グローバルを舞台に活動しよう意識を合わせました。

※1：Portfolios, Programs, and Projects

3. 研究活動

研究活動は2つのワーキング・グループおよび個人研究活動があります。ワーキング・グループは、「AIを使ったリスク研究」と「RM基礎研究」の2つであり、「RM基礎研究」は「リスク用語」、「標準文書調査」、「リスク要因」の3つのサブグループに分かれています。



「AIにおけるリスク研究」は、リスク特定や定性分析などのリスク・マネジメント・プロセスに使えるAIテクノロジーを調査し、世の中にあるツールを使用してリスク・マネジメントを効率的にできるか研究しています。

「リスク用語」は、リスク・トリガーやリスク・エクスポージャーなどリスクに関連する用語を抽出し定義した上で、各リスク用語の関連図（鳥観図）を作成することにより、リスク・マネジメントがどのようなものか説明ができ、現場で活かせないかを研究しています。

「標準文書調査」は、2019年英語版が、2022年7月に日本語版が発刊された「ポートフォリオ、プログラム、プロジェクトにおけるリスク・マネジメント標準」を、英文を原文として疑問点や注意点を討議することにより読み解いています。新標準は、2009年に発刊された実務標準文書「プロジェクト・リスク・マネジメント実務標準」から標準文書に格上げされています。実務標準はプロジェクト・リスク・マネジメントの範囲でしたが、新標準はポートフォリオ、プログラム、プロジェクトの範囲となっているので、広範囲の守備範囲となったことが大きな変更点です。

「リスク要因」は、ITプロジェクトの経験をもとにリスク要因となりうる事象を抽出し、分類し、事象同士の結びつき（関連性）を考察することでリスク特定・分析の際のヒントとなることを狙いとしています。特徴的なことは、プロジェクトを取り巻く環境や状況によってリスクの元となる事象（要因）は脅威になり、好機にもなるとの2面性をもっているため、2面性を考慮することです。

個人による研究活動は、年初にリスクに関するテーマを決め、1年間研究した成果をまとめます。2022年度は「リスク・マネジメントを考える」や「価値創造のリスク・マネジメント」などをテーマに研究活動をしました。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

4. 研究会内フォーラム

研究会内フォーラムは2021年度からZoom開催しています。1年間の研究内容の成果を20分の資料にまとめて研究会内部で講演します。今年は「OPM^(※2)の実行とリスク、課題、考慮しなければならない因子と対応策」や「リスク要因の相互関係」など6件の講演を行いました。講演者は研究活動の内容を資料としてまとめるため成果を明確にできること、聴く側は今まで疎遠であったテーマが身近になり学びになります。

研究会メンバーがデザインした独自のCertificateを作成し講演者に渡しています。



※2 : Organizational Project management

5. PMI日本フォーラム

リスク・マネジメントに関する研究活動の成果をPMI日本フォーラムにおいて発表しています。2021年にPMBOK[®]ガイド第7版が出版されてこと、および2022年に「ポートフォリオ、プログラム、プロジェクトにおけるリスク・マネジメント標準」の日本語版が発行されたことにより、それらからリスク・マネジメントをどのように考えればよいかを研究した成果を「PMBOK[®]ガイド第7版と新リスク・マネジメント実務標準書の変化からリスク・マネジメントを考える」を発表しました。

6. RM-Jam

テーマに対して意見やイメージを出し、各自の意見をJam（ジャム）のように絡み合うような意見交換を行うことで、面白いアイデアや研究テーマを見出すために行っています。具体的にはSlack上で72時間の時間を区切り、メンバーが意見や質問などを投稿することで意見交換を行っています。「リスク感度：～個人と集団、感度はメジャー可能か～」、「コミュニティ活動におけるリスク・マネジメント」、「Self-Driving（Auto-Driving）」など広範囲のテーマを扱っています。

7. RM-Salon

コロナ禍の影響で2020年3月からすべてオンライン会議となり、リアル会議後のネットワーキングのようにメンバー間の親交を深め、研究活動に対する議論を行うことはなかなか難しい。そこで、メンバー間のコミュニケーションツールとしてRM-Salonを立ち上げ、リスクに関係することやその他の色々なことについて会話をしています。毎週日曜日22:00-23:00 Zoom開催しています。

8. コロナ禍の影響で未実施のこと

コロナ禍の影響で実施できていないこととして、「リスク・マネジメント・セミナー」、「遠足付き忘年会」、「合宿」の3つです。2023年度のコロナの勢いがどうなるかは不明ですが、リアルの実施は考えていきたいと思っています。



9. 一緒に活動しませんか

「気軽に、楽しく！ そして真剣に！」

リスク・マネジメントで世の中に「幸せ」を増やしませんか？

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

■ 2. 組織拡大委員会

組織拡大委員会 委員長 藤井 新吾

■ ミッション

組織拡大委員会は、個人会員および、法人スポンサーの獲得を通じて日本支部の活動充実を図り、日本のPMコミュニティ発展に貢献することをミッションとして掲げています。

■ 会員および法人スポンサー

上記ミッションの下での各種の取組みにより、2022年10月末現在、会員および法人スポンサーの数は以下のとおり拡大しています。

- ・個人会員数：5,541人

全世界のPMIの支部の中でワシントンDCに次いで世界第2位

- ・法人スポンサー：112社

年2回の支部紹介セミナーと法人へのコンタクトにより2022年度8社が新規入会

■ 組織拡大委員会について

組織拡大委員会には、下表に示すように8つの活動があり

ます。

組織拡大委員会では、日本のPMコミュニティ発展を目指し、新たな活動を立ち上げてきました。

2020年 SDGsスタートアップ研究

2021年 表彰制度 (PM Award)

2022年 NPO向けPM研修

■ 各活動の紹介

● 法人スポンサープログラム

法人スポンサープログラムは、組織（企業、教育機関、行政機関等）でのプロジェクトマネジメントの普及、向上に関心を持ち、日本支部のミッションに賛同し、活動を支援してくださる組織の皆さまに対し提供するプログラムです。

(1) SG（スタディ・グループ）

法人スポンサー様の社員のみで構成される勉強会で、企業が共通して抱える課題、対応すべき事柄について意見交換、調査研究を行っています。現在、人材育成SG、ケースメソッドSG、若手PM育成SGの3つがあります。

表1 組織拡大委員会の8つの活動

活動	2022年度の主な成果／実績
① 法人スポンサープログラム	会合：年間5回 SG（スタディグループ）活動：通期 3SG 定点アンケート：11月 計画通り実施
② 支部紹介セミナー （法人スポンサー獲得）	法人向け：年間2回 計画通り実施
③ 支部紹介オリエンテーション （個人会員獲得）	個人向け：年間4回 ※2022年度から開始 PMI-APによるビジネス・デベロップメント施策との連携も強化
④ 他団体連携活動	日本NPOセンターとのNPO向けPM研修協定締結 Affiliate Program の日本支部導入 エンジニアリング協会（ENAA）でPMIJとして講演
⑤ 産学連携活動	大学向けに新たなチャネルを開拓し、12/17 学生向け講演会開催 ※教育国際化委員会の活動へ連携
⑥ 未来創造プログラム	（外部講師セミナー＋PMセミナー）×3回＝計6回実施
⑦ PM表彰制度 （PM Award）	会員外からのエントリー、セミナー参加を大幅に拡大、 更に、PMI-APとのプロモーション連携も強化
⑧ NPO向けPM研修 プログラム	他団体連携の活動として、PMIアジアパシフィックの承認を得て始動 第1回の研修では、NPO5団体（15人）へ企画と計画の研修実施

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

(2) 法人スポンサーへのコンタクト

112社（12月末現在）。今年度は11社へコンタクトし、8社が新規入会。法人向け支部紹介セミナーを年2回開催しました。

(3) 法人スポンサー連絡会

年4回開催。PM界の最新情報をお伝えしています。法人スポンサー様社員のみが参加いただけます。

12月1日には、女性コミュニティから「女性プロマネの活躍が当たり前になる社会を目指して」、未来創造プログラムから「若手の活性化から組織の活性化へ」の講演と、3つのSGから活動報告がありました。

(4) PM部門長セミナー

年1回（5月26日）開催。部署をリードする際に必要な最新の情報をお伝えしています。

(5) 法人スポンサー向け定点アンケート

法人スポンサー様が抱える問題点や支部への要望等を把握すべく11月に実施しました。

● 法人スポンサー獲得活動

支部紹介セミナー：法人スポンサー拡大のため、日本支部会員に対して法人向け支部紹介セミナーを開催し、法人スポンサープログラム活動の一端を体験いただきました。8月26日の開催分では、法人スポンサープログラムの中からホットな2つのトピック、「企業変革を実現に不可欠のプログラムマネジメント」および「PMBOK®ガイド第7版」について紹介しました。

● 個人会員獲得活動

支部紹介オリエンテーション：日本支部会員になっていたでない方々を対象に、支部活動をご紹介するとともに、スキル向上やネットワーク構築のお役にたてるよう、支部紹介オリエンテーションを開催しています。これは、PMIおよび日本支部が提供する多くのプロジェクトマネジメントに関する知識体系、最新動向、教育コンテンツ、部会（研究会）活動等のご紹介を通して、その有用性をわかり易くご紹介するものです。

● 未来創造プログラム

未来創造プログラムの目的は、①若い人にPMIを知ってもらう ②経験を（シニアから）次世代につなぐ ③新しい潮流を知ってもらう の3つの意味でCAPMを紹介しています。

中期計画でネクストジェネレーション（5～35歳）の会員拡大を目的としていましたが、その前提である若手層へのPMIの認知からプロジェクトマネジメントの認知へと活動領域を拡大しました。

(1) 未来創造セミナー

日本支部では、未来を創造する担い手である若年層を対象に、2021年から「未来創造セミナー」を開催しており、社会の環境やニーズ変化が激しい状況を踏まえ社会的影響力のある講師（起業家、社会活動家、実務家等）をお招きし、皆様の仕事や生活に役立つ幅広いテーマを扱い情報提供しています。

(2) 未来創造ワークショップ

これは初心者向けプロジェクト入門のワークショップです。プロジェクトマネジメントを学び、仕事やプライベートに活かしたい方へ、身近な題材を例に、プロジェクトシートを使って、皆で楽しく学べます。

(3) 未来創造コミュニティ（立ち上げ準備）

若手・学生層の個人会員化を推進するため、未来創造セミナーを起点とした若手コミュニティ（未来創造コミュニティ）として「未来創造コミュニティ」を立ち上げ準備中です。

● PM表彰制度（PM Award）

PM Award は2021年に創設したもので、未来創造に繋がる日本国内および、日本企業・団体による優れたプロジェクトを表彰する制度です。

2022年度は会員外からのエントリー、セミナー参加を大幅に拡大するとともに、PMI-APとのプロモーション連携強化を行いました。

PM Awardの詳細は公式Webサイト（<https://www.pmi-jaward.net/>）をご覧ください。

2022年度は、優秀賞6件のプロジェクトをファイナリストとして選出しました。ファイナリストをご紹介するオンラインセミナーには1,400名を超える視聴登録をいただき、オンライン投票には約1,000名が参加されました。また、18団体の協賛・後援をいただきました。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

表2 2022年のPM Award関連行事

実施事項	時期
表彰制度の発表とエントリプロジェクトの募集	4～6月
一次選考とファイナリストの発表	7～8月
ファイナリスト紹介オンラインセミナーの開催	9月
最優秀プロジェクトを決めるオンライン投票の実施	9月
授賞セレモニーの開催	10月
Japan Festa での講演（最優秀PJご講演）	11月



受賞セレモニー後のスタッフ一同

表3 NPO向けPM研修プログラム

参加団体の活動概要
子育て支援
教育
子ども / 防災 / 在住外国人 / 市民活動
社会福祉
学校教育支援
海洋生物・海洋環境の保全

実施事項	時期
NPO向けPM研修の募集	5月
日本NPOセンターから研修参加NPO募集	10月
申込NPO向けオリエンテーション＜オンライン＞ (8団体参加希望、5団体(15人)研修参加)	10月
NPO向けPM研修（2回）＜オンライン＞	11月

●委員会委員・事務局：14名

zoomによる基本月1回の定例会（基本第2火曜19時）
イベント毎のミーティング

●表彰制度（PM Award）：6名

zoomによる基本月1回の全体会と各チームによるミーティング

●未来創造プログラム：7名

zoomによる基本月1回のzoom定例会とイベント毎のミーティング（基本第3水曜19時）

●NPO向けPM研修プログラム：9名

zoomによる基本隔週1回の定例会（火曜21時）とイベント毎のミーティング

日本のPMコミュニティ拡大のための取組みを通して共に創る楽しさを皆さまと一緒でき、それが皆さまご自身の価値ある体験になれば幸いです。創る側を体験したいイベントに活動範囲を絞って参加できるのも当委員会の魅力です。

日本支部の部会参加申込フォームの「その他・コメント・ご質問、部会に伝えたいこと等」に参加を希望される①活動（表1参照 複数可） ②参加理由 ③PR（あれば）を追記いただきお申込下さい。

お申込は随時受け付けておりますが、活動へのご参加時期については各活動の募集タイミングにてご都合を確認させていただきます。

●NPO向けPM研修プログラム

日本支部と日本NPOセンターの共同事業実施協定に基づく活動として、日本支部組織拡大委員会内にNPO向けPM研修プログラムを立ち上げました。11月に実施したNPO向けオンライン研修では、5団体（15人）へ、Day1：プロジェクトの立上げ（講義・演習）、Day2：マスタースケジュール（講義・演習）、WBS（講義・演習）、ステークホルダー管理（講義）を実施し、来年度の継続実施希望もいただきました。

複数人かつ初めての協働ではNPOをリードするプロマネ力が問われ高まっていることから、参加団体からは、全ての団体から、自団体の活動に研修で学んだ内容を活用していくとのコメント得ました。

支部会員にとっては、社会課題に取り組むPM実践（調査・研究）の場が得られ、支部にとっては、社会課題の取組みへの意識が高い若手へPMの裾野も広がられます。

■入会のお誘い

組織拡大委員会は36名（2022年11月末時点）にて、下記の活動をそれぞれの所属メンバーによる自律的な活動（理事は委員会と兼任）で運営しています。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

3. PMコミュニティ活性化委員会

PMコミュニティ活性化委員会 代表 杉原 秀保

PMコミュニティ活性化委員会では、主にPMI日本支部会員のコミュニティを活性化するための交流の場や情報を提供し、アクティブメンバーの増強と日本支部の価値向上に貢献することを目的としています。現在、部会リーダーと共に部会コミュニティを活性化するための部会リーダー交流会やLM2022のイベントを企画・開催しており、またアクティブ会員の増加を目指して、新入会オリエンテーションや部会紹介セミナーも定期定期に開催しています。以下、具体的な取り組み内容について、ご紹介します。

2022年活動実績

活動内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
LM2022		企画				募集			9/3 開催	10/28 報告		
部会リーダー交流会			3/29 △			6/29 △				10/31 △		12/10 △
新入会オリエンテーション			3/30 △			6/30 △			9/30 △		11/30 △	
部会紹介セミナー			3/7 △		5/31 △			8/31 △			11/29 △	
部会専用サイトの導入												
部会メンバーネットワーキングイベント						企画				募集		12/10 開催
コンシェルジュサービス	通年											

■部会リーダー交流会

部会リーダー交流会はPMコミュニティ活性化委員会が企画・運営しており、日本支部と各部会の活動に関する情報共有並びに情報共有を通じた部会間の連携促進の機会として、部会活動の活性化に資することを目指しています。2022年も計画どおり4回開催することが出来ました。2017年のスタートから通算で25回を数えます。

COVID-19対応が続く中、本交流会も2022年はリモートを中心に開催・運営しましたが、年末（12/10）の各研究会の活動成果と次年度計画を共有する第4回目については、恵比寿のイベントスペース会場（EBiS303）にて、全国から72名（リモート参加含）の方に申しいただき盛大に開催することができました。また、同会場で開催した懇親会は約3年振りとなるリアル会場開催ということもあり、久しぶりにお会いする方や初めてお会いする方との直接対話を通じて、皆さ

ん笑顔で親交を深めておられた姿が印象的でした。同じ場所に集い、お互いの熱量や空気感を共有することは、PMI日本支部の一体感醸成に重要な意味を持つことを再認識できたので、来年皆さんにお集まりいただける機会を増やせるよう取り組んでまいります。皆さまからもアイデアやご意見をいただきたいので、引き続きご協力・ご支援を宜しくお願いいたします。

■リーダーシップミーティング2022 (LM2022)

今年で8回目となるリーダーシップミーティング2022 (LM2022) では、日本支部の各部会（委員会、研究会、プログラム、コミュニティ）から、リーダーやアクティブメンバーを中心とした代表者2～3人に参加いただき、今後のPMI本部や日本支部のビジョン、方向性、施策の共有のほか、参加者のリーダーシップ育成を目指したワークショップを実施しました。こうした取り組みを通じて、よりアクティブな部会活動を促し、支部活動を活性化させることを目的としています。

PMI日本支部リーダーシップミーティングLM2022

スケジュール	時間	内容	備考	運営チーム(MC)
	10:00-10:20	オープニング、端山会長挨拶		石井 真
	10:20-10:40	基調講演 1: PMI Impact Strategy in Action in Japan YeYoon Kim, Chapter Engagement Manager, PMI-AP	英語講演	
	10:40-11:00	基調講演 2: 「次期中期計画と25周年記念プログラム」 ミッション委員会委員長 浦田有佳里 副会長		
	11:00-12:00	ワークショップ: セッション0 「25周年を迎えるにあたり、これからの課題を考えよう」 当麻哲哉教授、石井 真		
	12:00-13:00	記念撮影（画面撮影）、昼食	各自準備	
	13:00-15:00	ワークショップ: セッション1・2 「25周年を迎えるにあたり、これからの課題を考えよう」 当麻哲哉教授、石井 真	休憩あり	
	15:00-15:10	《休憩》		
	15:10-16:30	討議結果発表（10分×8グループ）: セッション3 各グループ: 発表5分 + 質問と切替5分		
	16:40-17:00	講評（森田理事）、投票		石井 真
	17:00-17:10	《休憩》	各自で飲食物準備	
	17:10-18:00	交流会（自由参加）、優秀グループ発表		石井 真

2022年9月3日。3年振りとなる会場開催を目指して準備を進めてきましたが、COVID-19の影響に鑑み、残念ながら昨年同様Zoomを用いたリモート形式での開催となりました。直前のリモート開催への変更にも関わらず、合計63人の方に参加いただき、丸一日にわたり熱い議論が展開されま

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

した。

オープニングでは、端山会長より支部会員数が5,600人を超え世界第2位の規模となり注目度が高まっていることや、自己管理的なリーダーシップモデルについて、お話いただきました。続く基調講演①では、「PMIの日本市場における重点戦略」と題して、シンガポールからリモート参加でYeYoon Kim氏（チャプター・マネジャー）に講演いただきました。PMIの挑戦としてPMIの知見を必要としている人々へリーチを広げ、社会の影響力を高め、永続的な関係構築を築いていくことの3点を掲げておられました。基調講演②は、浦田副会長から「次期中期計画と25周年記念プログラム」をテーマに方向性を示していただき、午後のワークショップテーマに繋がるお話をいただきました。

午後は、「来年、創立25周年を迎えるにあたりこれからの課題を考えよう」という題目でのワークショップを実施。8グループに分かれ4つのターゲット：「個人（会員・非会員）」、「企業団体（法人、新業種、行政）」、「若者（Z世代、学生）」、「シニア・エキスパート（セカンドキャリア）」を掲げてオンラインツール（Miro）用いて課題認識や施策について議論し、その後各グループから成果発表を行いました。2023年はコロナ禍が落ち着き会場開催に戻せることを願っています。



■新入会オリエンテーション

新入会オリエンテーションは、今年も年4回実施しました。主に直近3ヶ月に入会いただいた方向けに、PMI、日本支部、部会活動などの価値をご理解いただくためのセミナーを開催しています。主に、以下の3つのテーマ（PMI本部の取組み、PMI日本支部の取組み、研究会や委員会など部会活動内容のご紹介）について、特徴や違い、メリットなどの説明を実施しています。また、後半は少人数に分かれて参加いただいている方の疑問や心配事などの相談や質問にお答えして、支部

会員のメリットを最大限活かしていただけるようサポートしています。

●新入会オリエンテーションのアジェンダ

第1部 19:00-20:00

1. PMIについて
2. PMI日本支部について
3. 部会活動について
4. Q&A

第2部 20:00-20:30

ネットワーキング

■部会紹介セミナー

部会紹介セミナーは、今年四半期に一度のペースで4回実施しました。主なターゲットは支部会員ではあるものの、まだ各研究会等の部会活動に参加されていない方です。当セミナーでは、毎回3つの研究会や委員会にご登壇いただき、各部会の活動内容や参加のメリット・魅力をお伝えする中で、アクティブ会員になっていただくための情報提供を行なっています。また、後半はブレイクアウトセッションにて少人数のグループに分かれ、参加者の質問にお答えすることで部会活動に対する不安を和らげることも実施しています。

●部会紹介セミナーのアジェンダ

第1部 19:00-20:10

1. PMI日本支部の部会活動について
2. 各部会の説明
 - 部会A
 - 部会B
 - 部会C
3. Q & A

第2部 20:10-20:30

部会別交流会

●2022年に説明いただいた部会（ご参考）

PMBOKセミナー・プログラム、PMタレントコンピテンシー研究会、プロジェクトマネジメント実践研究会、アジャイル研究会、セミナー・プログラム、関西ブランチIT上流工程研究会、地域サービス委員会、ビジネスアナリシス研究会、PMO研究会、リスクマネジメント研究会、組織拡大委員会、PMコミュニティ活性化委員会

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

■PMコミュニティ活性化委員会活動へのお誘い

当委員会に参加し、PMI日本支部運営を支える各種イベントの企画・運営を私達と共にしませんか？ 当委員会活動を通じて、PMI日本支部の各委員会や研究会の活動実態把握や人脈形成が図ることが出来るだけでなく、加えてコミュニティ運営ノウハウも習得できますので、人生100年時代に求められる「人と繋がるスキル」を身につけることができます。各種コミュニティの運営スキルや他組織へ越境し協業するスキルは、本業だけでなく人生のさまざまなステージで豊かな生活を送るために必要なスキルですので、賛同いただける方の積極的なご参加をお待ちしています。

当委員会は月に1回定例会を開催しており、見学だけのオブザーバー参加も大歓迎ですのでお気軽にご参加下さい。

月例会：毎月第一火曜日 19:00-21:00 ZOOM 開催

■研究会・委員会活動への参加方法

1. 部会決定。

部会活動紹介ホームページ やアニュアルレポートなどより部会を選択

2. 申し込み書記入

「PMI日本支部 部会活動（委員会・研究会等）への参加申込み書」をダウンロードし必要事項を記入（氏名、PMI日本支部会員No、連絡先（TEL、メール）、PM経験等）

3. 申し込み書提出

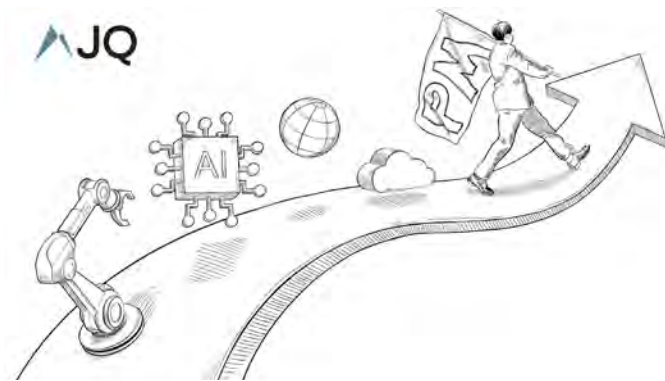
参加申込書をメールに添付し、部会活動参加申込み担当宛てに送付（bukai-sanka@pmi-japan.org）

Stakeholders／法人スポンサー紹介

株式会社 JQ

1. 株式会社 JQ とは

アクセンチュア、IBM、マッキンゼー出身者を中心に構成された、プロジェクトマネジメント集団です。



【会社概要】

- 本社：東京都千代田区神保町
- 代表取締役社長：下田幸祐
- 設立：2002年12月
- 従業員数：34人

【会社経緯】

- 代表の下田が2001年にアクセンチュア株式会社に入社し、開発プロジェクトからBPR、官公庁の情報化戦略計画立案など幅広いプロジェクトに従事。
- 2007年に独立（創業自体は2002年で、下田が代表に就いたのが2007年）
- 当初は現在も続く、多肉植物のECほか様々な自社サービスの立ち上げに重きを置いていたが、副業的にやっていたプロジェクトマネージャーの代行のような仕事の方が好評で、徐々にプロジェクトマネジメント事業の比重が高まる
- 2017年から、本格的にプロジェクトマネジメント事業で中途採用を始め、徐々に規模が拡大しつつある

【JQの特徴】

- 「伴走」と「推進」をキーワードにしたプロジェクトマネジメントスタイル

会社として売上目標や前年度比成長目標などを持たないの
で、常にフラットに（自社の立場を押し付けず）、お客様に
寄り添ったサービスを提供。

また、計画・管理にとどまらず、積極的に課題解決に入っ
ていく、関係者の懐に入っていく、「推進」することを重視
したサービスを提供。

- 体系化されたプロジェクトマネジメント方法論を作成・整備
していること

（Powerpointのスライドで1000枚以上、サービス企画プ
ロセスから開発方法論、実践的なプロジェクト管理の方法論、
資料作成や会議運営等のノウハウなどがまとまっている）

2. 事業・サービスのご紹介

【プロジェクトマネジメント事業】

- 取引先

大手生命保険会社や商社、メーカー、SIerなど幅広い業種
のお客様とお取引しております

- 対応しているプロジェクトの種類

1. DX（デジタルトランスフォーメーション）プロジェクト
2. 新規事業プロジェクト
3. デジタルマーケティングサービスプロジェクト
4. 基幹システム刷新/データ基盤構築プロジェクト

- ご提供するサービス内容

最上流から入り、企画や計画の立案を推進します。開発プ
ロジェクト化後は、積極的な段取り、課題解決でゴリゴリと
推進していきます。

- DXや事業、サービスの企画・計画支援（アイデア出し、ファ
シリ、資料起こし、システムグラウンドデザイン、プロジェ
クト計画作成など）
- 基幹システムの刷新計画、データ基盤等の構築計画などの

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■株式会社 JQ

立案

- RFP作成ベンダー選定・調達支援
- 要件定義や基本設計の作業計画・WBS作成、プロジェクト運営
- テスト・移行等の計画・WBS作成、運営

● プロジェクト事例

事例①：Jリーグ公式スマホアプリ企画・開発プロジェクト

企画段階から参画、企画検討の推進や、認証基盤やチケットシステム、メディアシステムなど様々なシステムとの連携も含めたシステムグランドデザイン作成などを行い、その後は、Jリーグやクラブ、電通、各種開発ベンダーなど多くのステークホルダーを取りまとめる全体PMOとしてプロジェクト成功をご支援しました。



事例②：りそな決済サービス 業務DX企画プロジェクト

業務DXとして何をするのかの企画立案から、DX前後のフロー作成、機能整理、コスト効果の算出、DXの実行計画の作成、要件定義など最上流から上流工程のほぼすべての作業を弊社で行いました。



【自社事業】

● 従業員の声分析 AI&組織課題可視化サービス VoiScope (ヴォイスコープ)

従業員調査の自由回答をAIが分析し、組織課題を可視化するサービス。従業員から見た組織課題を俯瞰することができ、個々の具体的な声（＝自由回答）にすぐにアクセスするため、解決策をスピーディーに導けます。電通ビジネスデザインスクエアとJQの共同で企画を行い、JQがAIのモデルを含めて開発しました。



● 多肉植物専門ストア (EC) solxsol (ソルバイソル)

多肉植物専門のECサイト。多肉植物・サボテンのアソート販売や素敵な器への寄せ植えなど、インテリアとして映える商品を取り扱っています。運営責任者の松山美紗は、多肉植物やインテリアの専門家として著作の出版、インテリア雑誌やテレビ・ラジオ等のメディアへの出演も多数。



● 老舗・小規模事業者DX

高齢化や人手不足などの問題を抱える老舗店舗や企業をDXで支援し、サステナブルな経営に変革する「老舗再生事業」に取り組んでいます。経営課題の抽出、ECサイトの構築や動画を活用したマニュアル作成など、それぞれに合わせた課題解決を支援していきます。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■株式会社 JQ

3. PMI日本支部に期待すること

- 他の法人スポンサー様の活動や、PMIの各種イベントに参加して、様々な人と交流し、より幅広くプロジェクトマネジメントのノウハウや知識を増やしていきたいと思っています

ります

- また、PMBOK®は重要なナレッジ体系ですので、今後も最新のバージョンを含めて、中身を理解していきたいと思っています。

Activities / 支部活動

「ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ2022」 開催結果報告

PMI日本支部 関西ブランチ PM実践研究会 上辻 裕己



日本支部 関西ブランチ「あかね実践工房」
テーマ「4社合同 航空機部品開発プロジェクトにおけるチームビルディング」

「ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ」は、プロジェクトの実践事例から作成された短いケースを疑似体験し、グループで協議し解決策を作成することにより、プロジェクト・マネジャーの実践力向上を図る参加型のワークショップです。

本ワークショップでは、状況把握力、課題認識力、リスク特定力などのPM実践力の向上を目指しています。今回のテーマは「4社合同 航空機部品開発プロジェクトにおけるチームビルディング」です。

1. はじめに

2022年10月23日(日)13時30分よりPM実践研究会「『あかね実践工房』ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ2022」を、オンラインにて開催しました。

計8名(関東:2名、関西:5名、中国地方:1名)に参加いただき、6名のPM実践研究会メンバーで運営しました。

2. PM実践研究会の活動紹介およびショートケースメソッドのミニレクチャー

はじめに橋本代表からPM実践研究会についての説明をさせていただきました。

ショートケースメソッドは、プロジェクト・マネジャーの能力向上のため疑似体験としてショートケースを元に懸念事項と解決策について議論を行い、PMの実践力向上を図るものであるとの説明を行いました。

3. ワークショップの開催

より実践的に理解を深めていただくため、講師がサポートしながら個人ワークやグループワークを含むワークショップ方式で進めました。

まず、実践事例に基づくショートケースの紹介を講師が行い、各個人がショートケースの中から懸念事項を抽出し、対策案を検討しました。個人で検討した懸念事項と対策案を持ち寄り、チームでまとめて発表。最後に全体の振り返りを行い、重要な視点や持ち帰っていただきたい学びを整理します。

今回のワークショップは、チームビルディングをテーマとした新規のショートケースで行いました。

参加者8名が3チームに分かれ、与えられた状況において、

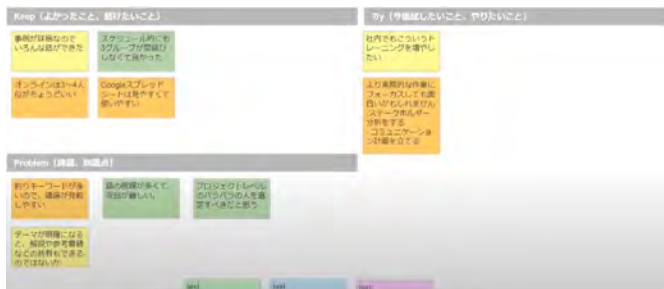
- ①懸念される箇所を全て指摘してください
- ②指摘した箇所で、具体的に何が懸念されますか
- ③懸念されることに対してどのような対策を講じますか

といった「問い」に対してまず個人検討を行った後、各々のチームにファシリテーターがついて議論を行っていただきました。今回の検討ではオンラインツールとして、「Google Slide」を活用し、意見を交わしました。

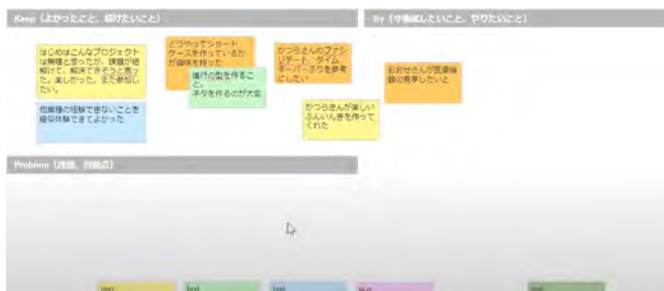
振り返りでは、Keep(良かったこと、続けたいこと)、Problem(課題、問題点)、Try(今後試したいこと、やりたいこと)に分けて意見発表が行われ、Keepに関しては詳細な事例による話の多様化、視点の違いによる受け止めの違いの発見といった意見、Problemではファシリテーションやスコープに関する課題、Tryでは共通言語の定義、自社への取り入れなどについての意見が見られました。

Activities / 支部活動

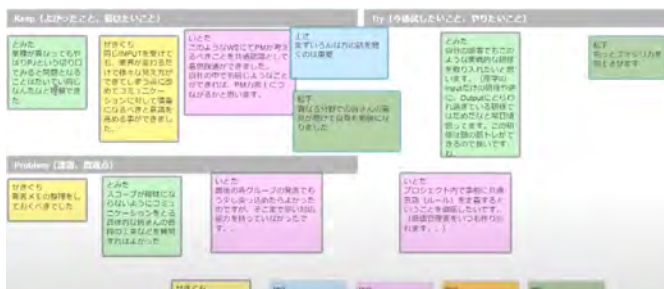
■「ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ2022」開催結果報告



振り返り (チーム1)



振り返り (チーム2)



振り返り (チーム3)

4. アンケート結果

ワークショップ終了後にアンケートを実施しましたが、回答をいただいた方の71%が今回初めてPM実践ワークショップに参加されたとのことでした。

参加後のアンケート結果では、満足度に関して不満とされ

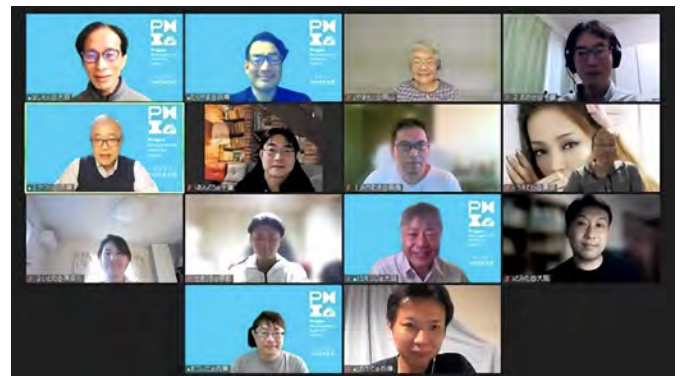
た方はおられなかったため、参加いただいた方には有益な時間を過ごしていただけたと考えています。

ショートケースによるワークショップだったから参加された方は57%おられ、ショートケースに関しての高い関心が見られました。特筆すべきはアンケート回答者全員が再びショートケース・ワークショップに参加を希望されたことで、このことからショートケースによるワークショップに対しての高い満足度が確認できました。

ショートケースを通しての学びや気づきに関しては課題の分析方法などの違いに気をつけることや解決方法の組み立てに役立てることなどに言及されており、参加された方の今後のプロジェクトマネジメント活動に貢献できたと考えています。

チーム検討に関しては話の進め方などファシリテーションに対して良好な反応が返ってきました。ファシリテーションに関しての質問をしたところ、議論の進め方やリラックスした雰囲気づくりなどに高い評価をいただきました。

今後、これらの貴重なご意見を踏まえ、関西ブランチPM実践研究会のさらなる活発な活動に向けて取り組んでいきたいと思います。



ワークショップ参加者

PM Calendar / PMカレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
新型コロナウイルス拡大防止の観点から、全てのセミナーをリモート化して実施しています。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

■ PMI日本支部関連セミナー / ワークショップ

● 2023年 新春特別セミナー

- 日時：1月21日(土) 10:00～12:00
- 形式：リモート開催
- 2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

● 戦略的PMO実践ワークショップ2023

- 日時：1月28日(土) 13:00～17:20
- 形式：リモート開催
- 4PDU

■ PMI日本支部関連イベント

● PMI 日本フォーラム 2023 (予定)

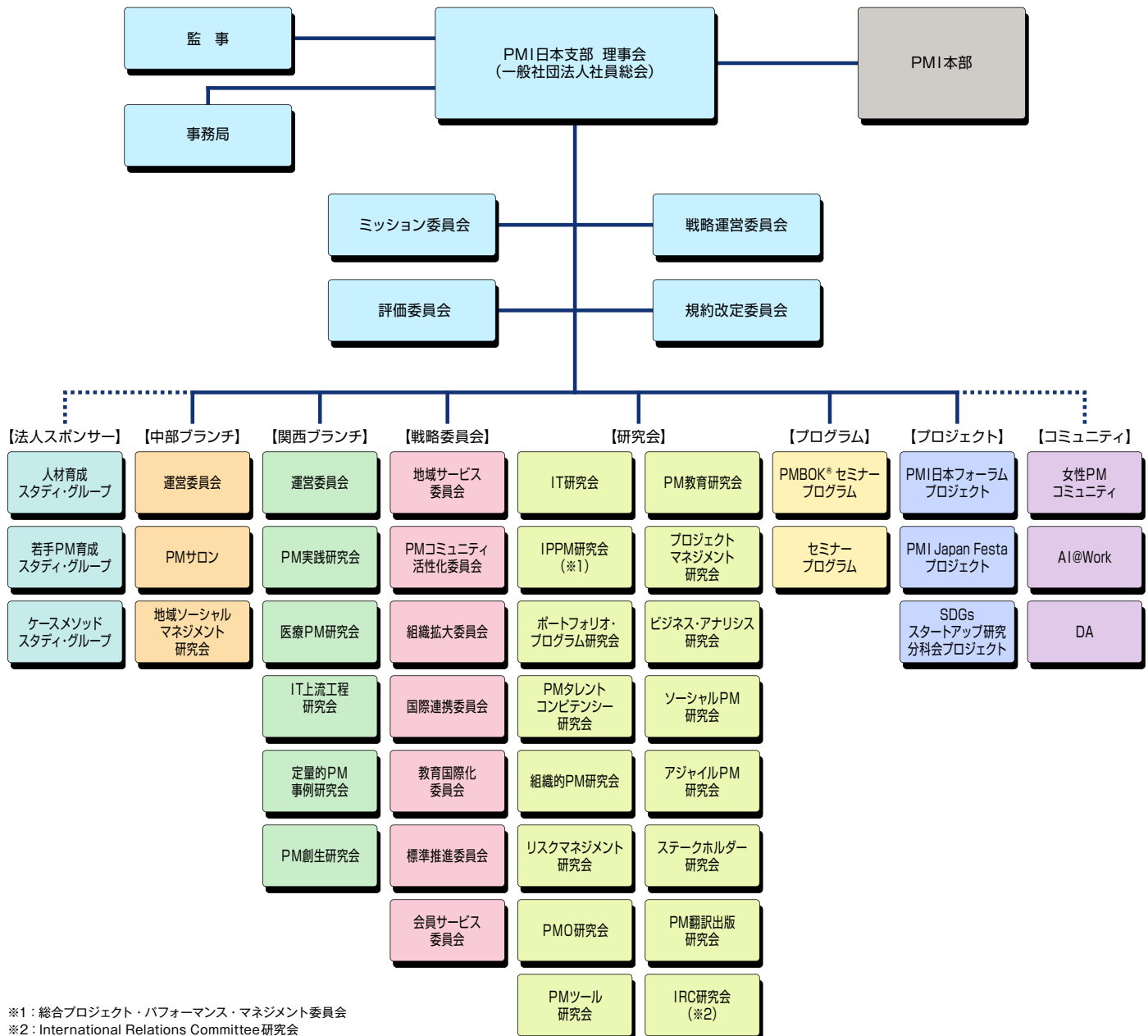
- 日時：2023年7月8日(土)～9日(日)

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(<https://www.pmi-japan.org/event/>)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2022年12月現在)



Fact Database / データベース

■ 理事一覧 (2022年12月現在)

会 長	端 山 毅	株式会社NTTデータ
副会長	麻 生 重 樹	日本電気株式会社
副会長	浦田有佳里	国立研究開発法人情報通信研究機構／ナショナルサイバートレーニングセンター
副会長	奥 澤 薫	KOLABO
副会長	斉 藤 学	スカイライト コンサルティング株式会社
副会長	森 田 公 至	キンドリルジャパン株式会社

(以下、五十音順)

理 事	有 坂 寿 洋	株式会社日立アカデミー
理 事	稲 葉 涼 太	株式会社Flexas Z
理 事	井 上 雅 裕	慶應義塾大学／芝浦工業大学／ISAL
理 事	小川原陽子	日本アイ・ビー・エム株式会社
理 事	鬼 束 孝 則	Ridgelinez 株式会社
理 事	金子啓一郎	三菱電機株式会社
理 事	杉 原 秀 保	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
理 事	千 葉 昌 幸	株式会社三菱総合研究所
理 事	中 村 亜 子	株式会社パーソル総合研究所
理 事	永合由美子	東京大学／(特非)日本女性技術者科学者ネットワーク／(特非)女子中高生理工学系キャリアパスプロジェクト
理 事	藤 井 新 吾	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
理 事	藤 原 慎	株式会社NTTデータユニバーシティ
理 事	松 本 弘 明	株式会社ローソン銀行
理 事	水 井 悦 子	エンパワー・コンサルティング株式会社
理 事	保 井 俊 之	広島県公立大学法人／叡啓大学
理 事	山 本 智 子	川崎医療福祉大学
理 事	除 村 健 俊	サイバー大学／芝浦工業大学
理 事	渡 辺 敏 之	日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)
監 事	片 江 有 利	株式会社システムコストマネジメント
監 事	三 嶋 良 武	エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社
監 事	山 中 良 文	JFEシステムズ株式会社

■ 最新の会員・資格者情報 (2022年10月31日現在)

会員数 (人)	
PMI 本部	日本支部
670,327	5,541

資格保有者数 (人)												
PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®	DASM®	DASSM®	DAC®	DAVSC®
世界全体	日本在住											
1,298,818	42,006	6	15	22	363	12	19	453	41	41	10	2

■ 行政スポンサー (2022年12月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市

■ 法人スポンサー 一覧 (112社、50音順、2022年12月現在)

- TIS 株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノン I T ソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTT データ
- プラネット株式会社
- 日本ユニカ・システムズ株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ヒューレット・パカード株式会社
- 株式会社アイ・ティー・ワン
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTT データ関西
- BIPROGY 株式会社
- JBCC 株式会社
- 株式会社パーソル総合研究所
- 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立アカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研 DCS 株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱電機ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- 株式会社 N T T データ アイ
- 日鉄ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮グローバル株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDI ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタシステムズ
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- NCS&A 株式会社
- 日立物流ソフトウェア株式会社
- SCSK 株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- SOMPO システムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS&AD システムズ株式会社
- リコージャパン株式会社
- SBテクノロジー株式会社
- 株式会社インテージテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルート
- アクシスインターナショナル株式会社

Fact Database / データベース

- JFE システムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- キヤノン株式会社
- ビジネスエンジニアリング株式会社
- 大日本印刷株式会社
- サイフォーマ株式会社
- I&J デジタルイノベーション株式会社
- 株式会社NTT データ・ニューソン
- キーウェアソリューションズ株式会社
- NEC ソリューションイノベータ株式会社
- 株式会社パスコ
- アベールソリューションズ株式会社
- 株式会社パデコ
- MI デジタルサービス株式会社
- エス・エー・エス株式会社
- Wrike Japan 株式会社
- 明治安田システム・テクノロジー株式会社
- テルモ株式会社
- トップラン・フォームズ株式会社
- ペルノックス株式会社
- キンドリルジャパン株式会社
- 株式会社ヒューマンテクノシステム
- 株式会社ITプレナーズジャパン・アジアパシフィック
- 富士電機株式会社
- KDDI 株式会社
- フラッグス株式会社
- 株式会社JQ
- 株式会社PE-BANK

■ アカデミック・スポンサー 一覧 (52 教育機関、50 音順、2022 年 12 月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院 芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学 経済科学部
- 北海道大学大学院 情報科学研究科
- 山口大学大学院 技術経営研究科
- 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 大学院情報科学研究科
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 大阪大学大学院 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学 産学・地域共創センター
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究センター
- 北海道情報大学
- 山口大学 工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科 および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 飯島研究室
- 就実大学 経営学部 経営学科
- 神戸女子大学 家政学部家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 敷田研究室
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター
- 岡山大学 教育研究プログラム戦略本部 戦略的プログラム支援ユニット (URA)
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 サービスシステムデザイン研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文化学科
- 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセーター病院 研究センター
- 中央大学 国際情報学部
- 福岡工業大学 情報工学部システムマネジメント学科
- 学校法人 角川ドワンゴ学園 経験学習部
- 第一工科大学 東京上野キャンパス
- 公立大学法人大阪 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター
- 東京理科大学 経営学部 国際デザイン経営学科 森本研究室

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

■千葉工業大学における学生へのCAPM®資格取得計画

前号に続き、CAPM®資格取得に向けて学部をあげて取り組んでおいでの千葉工業大学創造工学部デザイン科学科からの投稿です。今回は、同学科4年生の廣瀬理桜様からのCAPM®合格体験記です。

■PMI Japan Festa 2022 結果報告

2022年11月12日から30日まで、「PMI Japan Festa 2022」が全面リモート形式で開催され、今年も盛況裡に閉幕しました。本イベントの統括PMを務めたセミナープログラム 鴨下恵一様による結果報告です。

■委員会・部会活動内容紹介

2022年11月29日(火)に行われた「部会紹介セミナー」から、「リスク・マネジメント研究会」、「組織拡大委員会」、「PMコミュニティ活性化委員会」の活動内容について、各代表からご紹介いただきました。

■新規法人スポンサー紹介

2022年7月に法人スポンサーに加入された 株式会社JQ様から自社紹介をいただきました。

■セミナー実施結果報告

2022年10月23日(日)に行われた「ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ2022」の実施結果について、主催した関西 brunch PM実践研究会の上辻裕己様からご報告いただきました。

ニューズレター編集担当から読者の皆さまへお願い

皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

今年12月12日に発表された「今年の漢字」は『戦』でした。毎年「いい字」を少なくとも「一字」は覚えてほしいという願いを込めて、12(いいじ)月12(いちじ)日の語呂合わせから、日本漢字能力検定協会がこの日を漢字の日と定めたからだとか。

ロシアのウクライナ侵攻による「戦」い、円安・物価高による生活面での「戦」い、世界を熱狂させたサッカー・ワールドカップ、井上尚弥選手によるボクシング4団体統一などスポーツ界での熱い「戦」い…。

私たちPMI日本支部は2023年も挑「戦」し続けていきます！

PMI日本支部ニューズレター Vol.93 2022年12月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)